



今年も「麻疹」にご用心！！

— 麻疹に罹患したこともワクチン接種をしたこともない人は、
ワクチン接種を受けてください —

大塚 盛男（保健管理センター 臨床医学系 教授）

昨年は春から初夏にかけて麻疹が大流行し、特に10～20代を中心とした「成人麻疹」の集団感染が相次ぎ、休校になった大学もありました。幸い本学では集団感染にならず、休校もしないで済みましたが、検査試薬やワクチンの不足により対応に大変苦慮しました。

国立感染症研究所・感染症情報センターによると、今年もすでに神奈川県など都市部を中心に麻疹が発生しており、昨年と同様全国的に流行する恐れがあるとされています。学生の皆様には、ご自身への感染や学内での流行の防止のため早目の対応をお願いいたします。

「麻疹」とは

咳やくしゃみなどで飛散した麻疹ウイルスを吸い込み感染します。感染力は強力で、免疫のない人が感染するとほぼ100%発病します。典型例では、38℃前後の発熱、頭痛、咳などが2～4日続き、半日位の解熱後、再び39℃前後の高熱となり、顔、首などに赤い発疹が出現し全身に広がります。高熱は発疹出現後も3～4日持続し、解熱とともに発疹も徐々に消退します。時に肺炎や脳炎などを合併し重症化します。なお、ワクチン接種歴のある人では、典型的な症状を呈さず軽い場合もあります（修飾麻疹）。

「麻疹」にならないためには

唯一の予防法は、ワクチン接種です。接種後4週間以上経つと、95%以上の人に免疫ができます。接種の有無をご家族に聞くか母子手帳で確認し、麻疹に未罹患かつワクチン未接種の免疫のない人は早目に医療機関で接種を受けてください。

ワクチン接種が1回のみの人や麻疹罹患歴や

ワクチン接種歴が不明な人も、できるだけ医療機関で抗体検査を受け、必要があればワクチン接種を受けてください。なお、ワクチン接種が1回のみの人では、検査をせず2回目の接種を受けることも可能です。

「麻疹」が疑われたら

麻疹患者に接触したと思ったら保健管理センター（029-853-2400）に電話でご相談ください。また、約10日間体温を測定し、37.5℃以上の発熱や風邪様症状が出現したり発疹が出現した場合には、必ず医療機関を受診してください。なお、患者との接触後3日以内にワクチン接種を受けると発症予防できる場合がありますので、明らかな接触があった場合には医療機関に相談してください。

「麻疹」と診断されたら

保健管理センター（029-853-2410）に電話で報告して大学を休み、通院以外の外出は禁止です。解熱しても3日間は登校しないてください。

ワクチン接種歴のある人では修飾麻疹のことが多いと思いますが、症状は軽くても周囲への感染力はあるので、約1週間は自宅療養です。

麻疹に未罹患かつワクチン未接種の人では、典型的な経過を辿ります。麻疹の特効薬はありませんので、対症療法のみとなります。できるだけ安静にし、水分と栄養を十分補給してください。合併症がなくても高熱、咳、頭痛などの強い症状が約1週間続くので、症状が辛い場合には家族の助けを借りるか入院も考えた方が良いでしょう。激しい咳や高熱が続く場合は肺炎を合併している可能性があるので再度医療機関で受診してください。



ひとりで悩まず ほけかん 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410

学生相談室受付 029(853)2415